

NO! リニア

No. 1 3 1

2022年4月3日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



資金調達、財投の返済計画は不明 建設資金はあと5年で底を突く！ 令和4年度運営方針 経営協議会

令和4年度運営方針の経営協議会が4月1日、開催されました。コロナ禍が収まらず、運輸収入の回復の見込みがない中、会社は、毎年同様「3世代の鉄道」「日本の大動脈輸送」を錦の御旗に、リニア建設を強力に推進するとしています。

本部は、このような状況でリニア建設を進めることは、経営破綻を招くと主張しました。今年度のリニア投資額は550億円減の3,750億円ですが、根拠について会社は「東京外環道の崩落事故を受け、住民にシールド工法について丁寧に説明する。土地の買収のピークを超えた」と見解を示しました。しかし、これは2027年開業を諦め、建設資金の調達が困難になった、と思わざるを得ません。

また、本部は「品川工区での工事がストップしているのではないかと質問したところ、会社は「試掘を50m進んだところで、後方から機材の搬入作業がある。300m程試掘したところで住民説明会を行う」と回答しました。

また本部は、工事の進捗状況について「静岡工区以外にも遅れが出ているのではないかと質問しました。会社は「行程はタイトだが、着実に進めている。静岡工区だけがネックである」と、静岡だけが建設の足を引っ張っているとの見解を示しました。

最も重要な問題は、財政投融资の資金が2兆円を切り、あと4兆円の資金が必要とされる中、資金調達の方法が不透明であり、かつ、財政投融资からの融資の返済（毎年約3,000億円）の見込みが立たないということです。建設資金はあと5年で底を突きます。会社は、ただただ「破綻しないようにやるしかない」という主張しかできません。しかも、コロナ禍以前の収入に回復できることを前提に置いていますので、無謀と言うしかありません。

この先待っているのは、夢ではなく悪夢です。